

パース市のウォーターフロント開発について

鹿児島大学工学部 学生員 山下哲也
 鹿児島大学工学部 正会員 北村良介

1. まえがき

パースは世界で最も美しい街の一つであるといわれている。それに最も貢献しているのがスワン川である。この類のない自然環境はパース都市域の発展、人々の生活様式に大きな影響を与えている。緑化されたパース市の中心部の水辺は最も重要な特徴の一つであり、類のないイメージやアメニティを市中心部に醸しだしている。本研究は1980年代に行われたパース駅周辺部の再開発に引き続き、隣接したスワン川のウォーターフロントの開発計画の中間報告を参考にパース市のウォーターフロント開発における現状を探っている。

2. 研究対象地域の境界

研究される地域は中心地域に隣接したNarrows橋からCausewayの間のスワン川水辺部分から構成されている(長さは、約3.5km)。この土地の大部分は植民地の開始以来、川を埋め立てたものである。この研究地域は水辺に隣接するスワン川の一部と水際から約100mに及ぶ地域をも含む(図-1参照)。

3. 歴史的背景

川や水辺の開発の歴史的な背景に注目すると特色ある期間が確認できる(図-2参照)。

4. 現在の状況

対象となる地域は西側ゾーン、中央ゾーン、東側ゾーンの3つのゾーンから構成される(図-1参照)。

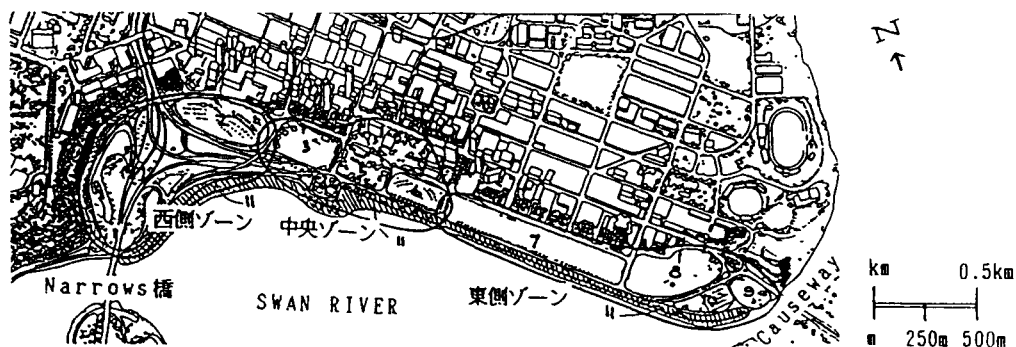


図-1 研究対象地域とゾーン分布

問題点一覧

- (西側ゾーン) : 道路によって作り出される地形のために川までの視界はインターチェンジ内やMounts Bay Roadに沿った所からは限られている。
- : 植生は外来種、自国種などに細分化され、景観の中へ道路システムを視覚的、物理的に取り込むのに十分なスケールではない(多くの地域は開放的でまばらに植物が植えられている)。
- : 駐車場は様々な種類の植物の陰によって部分的に作られているが、駐車した車の反射光や交通騒音があり、健康にも悪い。
- (中央ゾーン) : ベンチや芝生に座っている人から見た川端はインターチェンジまでの上りのアプローチによって遮られる。
- : バス、車、歩行者の区切りがなく混合している。
- : 最高裁判所周囲のフェンス、最高裁判所の駐車場のアスファルト舗装した部分はその地域のポテンシャルから魅力を無くしたり、減じたりしている。
- (東側ゾーン) : ABC鉄塔は隣接する建物にとって不調和な要素である。

